1『参加倫敦中国芸術国際展覧会出品図説　第3冊書画』
参加倫敦中国芸術国際展覧会準備委員会編輯
上海 商務印書館, 1936.4.
256p ： 図版 ； 27 cm

1935年11月28日から1936年3月7日までロンドン王立美術院で開催された「中国芸術国際展覧会」に出品された故宮博物院の出品目録。故宮博物院は、清朝皇室が保有していた歴代皇帝の美術品などを保存、展示することを目的に1925年に紫禁城内に設立された博物館だが、1931年に満州事変がおこり日本軍の侵攻から文物を守るため、上海を経て南京に大量の文物を移動した。

中国芸術国際展覧会は、パーシヴァル・デビット卿が主催し、世界各国のコレクターや美術館から3000点を超える美術品が出品された大規模な展覧会で、中国の国民政府も、上海に疎開中の故宮文物から800点を超える文物を出品した。故宮の文物がヨーロッパで展示されるのは初めてのことで、上海からロンドンの往復の輸送はイギリスの軍艦により行われた。

この図録は銅器、磁器、書画、その他の4冊からなり、書画編では175点を収載している。

2『中国文物図説 ： 国立故宮中央博物院手冊』
国立故宮中央博物院連合管理所出版委員会編輯
台北 ： 国立故宮中央博物院連合管理所出版, 1965.7
89, 11p, 図版 138p ； 26cm

満州事変以降、故宮の文物は上海を経て南京に移送されたが、1937 年の盧溝橋事件勃発以降さらに奥地へと運ばれ、戦争終結後、再度南京に集められた。革命による内戦が起こると国民党政権により、1948 年から翌年にかけそれらの文物の一部が台湾に移動された。その量は、故宮博物院が南方に疎開したうちの約 2 割にあたる 2972 箱の文物と国立中央博物院の所蔵品の 852 箱で、国立中央博物院は、1933 年に南京に準備所が設立された総合博物館で、北京の故宮に 1914 年に設置された古物陳列所の文物を統合していた。

現在の台北の故宮博物院の収蔵品はそれらを元にしている。台湾移送後、北溝の陳列室で公開されていたが、1965 年 11 月台北に新しい建物が開館して本格的に公開された。

この図録は文物を 13 類の区分に分けて解説し、227 枚の図版および図版リストを載せている。また故宮博物院と中央博物院の各々の文物の概説と北溝での展覧会活動について解説している。

3『陳列品図鑑 ： 八・一五後 蒐集』
ソウル ： 国立博物館, 1965.
125, 25p, 図版 50 枚 ； 31㎝

韓国の国立中央博物館の収蔵品は、1908 年に昌慶宮にできた李王家博物館、1915 年に景福宮に建てられた朝鮮総督府博物館および、1938 年開館の李王家美術館（1933 年から日本美術を展示していた徳寿宮石造殿と、李王家博物館から美術品を移動し朝鮮古美術の展示を行った 1938 年建設の石造殿新館とを合わせて改称）などから由来する。戦後総督府博物館から国立博物館として発足するが、朝鮮戦争の際は釜山に移動し、1953 年に景福宮に戻ってまもなく南山に移転、1954 年から 1972 年までは徳寿宮石造殿に移り、この間の 1969 年に李王家美術館を統合している。1972 年から国立中央博物館として景福宮に建物を新築し移転、1986 年から 1995 年の間は景福宮の旧朝鮮総督府の建物で開館したが、この建物の撤去と新博物館の建設が決まると、景福宮内の厚生館を増改築して一旦移転した後、2005 年 10 月ソウルの南方龍山に巨大な規模の博物館として開館した。

この図録は、徳寿宮石造殿時代に刊行されたもので、戦後国立博物館が収集した考古遺物を中心に収録しているが、その後移転を重ねた各時期においても活発な出版活動を行っている点が注目される。